

○14番 桐谷美華君

私は、中京中学校3年、桐谷美華です。まず、私は通学路の安全について質問します。

通学路の安全について、2つ挙げたいことがあります。1つ目は、カーブミラーや横断歩道の設置です。2つ目は街灯などの設置についてです。

この2つを挙げた理由は、日ごろ通学をしているなかで小学生も通る道なのに、カーブミラーが見えにくかったり、夜の遅い時間に暗かったり不便だと感じたからです。

また、この3つは、中京校区の道路などに関してです。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○後半議長 石川蒼真君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

桐谷議員の御質問にお答えします。

まず、まず初めにカーブミラーでございますが、設置については、建物や壁等が原因で見通しが悪い交差点やカーブにおいて、自動車等の目視、目で見える確認が困難な場合に設置しております。地域や通行者からの通報や、日頃の職員パトロールにより不具合を発見した場合には、直ちにミラーの角度の調整、改善を行うように努めております。

また、カーブミラーは、あくまで安全確認のための補助するためのものでありまして、見通しの悪い道路での安全確認は、カーブミラーだけを過信せず、運転手、ドライバーの方や通行者自身の目視が原則となっております。現在、カーブミラーは市内に3,600個ほど設置しておりまして、更新等の維持管理費用も年々増大しております。設置や改善の要望箇所については、現地調査を行い総合的に判断しながら、年間約30個程度、新たに設置等を行い安全対策に努めているところです。

それから、横断歩道の設置でございますが、議員がおっしゃいますように、通学路の安全性を高めるために横断歩道を設置することは、大変有効な手段だと考えております。

なお、横断歩道を設置することができるのは、警察になっていきますので、交通量の多い交差点や過去に事故が起きた場所などを総合的に考えまして横断歩道を設置する場合には、設置することになっております。以上でございます。

○後半議長 石川蒼真君

桐谷議員。

○14番 桐谷美華君

横断歩道の設置は、警察が行っていることが分かりました。それでは、警察にお願いしないと横断歩道は設置されないのでしょうか。

○後半議長 石川蒼真君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

そうですね、これはあくまでも警察の権限になってきますので、警察にしっかりと相談する必要があります。

ただ、もちろん我々のほうに相談がくる場合がよくありますので、ここはしっかりと御相談いただいた方々、学校あるいは地域の方々、そういった方々の御意見もしっかりと踏まえて、その旨も警察にしっかりとお伝えして、協議をさせていただくというかたちになります。以上でございます。

○後半議長 石川蒼真君

桐谷議員。

○14番 桐谷美華君

御答弁、ありがとうございました。次の質問に移ります。

次に、行橋市のSDGsに対する取り組みについて質問します。校内の弁論大会で環境問題に対し私たちにもできることを挙げてくれている人がいました。地球温暖化が進んでいく中で、行橋市はどのような対応をしているのか質問します。

また、給食のストローが削減されたことや、レジ袋が有料になったりしていますが、行橋市の対応についてお聞きしたいと思います。

はじめに、現在行橋市が取り組んでいる、地球温暖化に対する取り組みや、ごみ減量化への取り組みについて質問します。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○後半議長 石川蒼真君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。

国連が掲げたSDGsのターゲット・目標に合わせまして、行橋市の各部署で様々な事業を展開しております。

議員が言われました、この地球温暖化問題とごみ減量の問題ですね、これは密接に関係がある問題だと考えておりまして、ごみ処理に伴う温室効果ガスの排出は、地球温暖化の一つの要因でありまして、異常気象や気温上昇、さらに自然環境への影響による食料問題など、いろいろな問題につながってくることでもあります。

そして、こうしたことをなくしていく一つの方法としまして、やはりごみを減らしていくこと、これが大変重要であると考えております。

そして、この地球温暖化対策につきましては、世界中の国々がそれぞれ温室効果ガス

の削減目標を定めています。日本も削減目標を定めていまして、また行橋市におきましては、令和6年3月にゼロカーボンシティ宣言をしております。これは2050年までに温室効果ガス排出ゼロを目指すものであります。そのために、これから行橋市が、行橋市民の皆様方とやるべきこと、また、できることなどを定める実行計画を現在作成しているところであります。

また、すみません、ちょっと長くなりますけれども、いま現在行っている主な取り組みとしましては、自動車から排出される排気ガス削減のための電気自動車等の次世代自動車、電気自動車を購入する際の補助金を出させていただいております。

また、行橋市には、ごみを焼却する施設がありません。きょう少しお話をいただきましたが、北九州市さんで焼却をお願いしています。その焼却する時に発する熱を利用しました発電ですね、再生可能電力といいますが、その電力を火葬場などの電力として使用しておりまして、脱炭素社会への取り組みも行っているところであります。

もう少し続けますけれども、ごみの減量化についてですが、これはSDGsの目標・ターゲットの12 つくる責任・つかう責任、といったものに該当するところですが、容器包装リサイクル法に基づきまして、プラスチック製容器包装の分別収集やペットボトルの分別収集を行うこと。そして食品ロス削減につながる生ごみ処理器購入補助金を出しております。

それから、各校区の子ども会等が実施している資源回収奨励事業及び古くなった洋服などを自動車部品として再利用するための古着回収事業などに取り組まして、ごみの減量化と再資源化に向けた取り組みをしているところでございます。

また、これも前半で申し上げましたけれども、市報に、ごみ減量化プロジェクトといったものを載せております。プロジェクト名は、その1gを削り出せ、そういったネーミングでございますが、行政と市民の皆様が一体となって、ごみの減量化と資源化への推進を強化しているところでございます。

ちょっと長々と申し上げましたけれども、環境課の取り組みといたしましては、この他にも様々な施策を展開しまして、SDGsに対する施策を進めているところでございます。以上です。

○後半議長 石川蒼真君

桐谷議員。

○14番 桐谷美華君

ありがとうございました。

次に、今後どのような対策を行い、地球温暖化に対する対策やごみの減量化を図っていくのか、お聞きします。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○後半議長 石川蒼真君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

これはもう端的に申し上げます。ごみ減量に関しましては、4つのR、リフューズ・リデュース・リユース・リサイクルというものがございます。

これは、先月か先々月の市報を見ていただければ、それぞれの文言を詳しく書いておりますので、御参照いただければと思います。この4Rをしっかりと推進していくことによって、ごみの減量化を確実に進めていきたいと思っております。

また、この取り組みをしっかりと市報やSNS等を通じて、あるいは出前講座などを通じて、多くの市民の皆様方、多くの世代の皆様方と、このごみ減量といったものにしっかりと取り組んでいきたい、広報をしっかりとやって取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○後半議長 石川蒼真君

桐谷議員。

○14番 桐谷美華君

今後、自分でもできることを取り組んでいきたいと思っております。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。